

前回審議会(平成23年6月24日)、芸術団体等ヒアリング(平成23年11月～平成24年2月)の要点整理

前回審議会	主な意見の内容	最終報告案への反映
<p>「第3 基本目標と基本的方向」 「3 文化振興の3つの視点」について</p> <p>① 文化振興の視点は、「人材」の育成、確保、活用といった具体的な表現が明確ではないのではないかと、「ふるさと」についても同様</p> <p>② 文化振興の視点が「ふるさと」だけでは情緒的すぎ。「ふるさと富山」とすればニュアンスが変わる</p> <p>③ 文学館でふるさとの郷土愛を育てることを期待</p> <p>「5 基本目標の達成に向けて」について</p> <p>④ 成果重視の考え方は必要</p> <p>⑤ 「県民参考指標」を設定する意味</p> <p>⑥ 10年間の計画の中でも最初の5年間で重点的に取り組むことを明確にすることが必要</p> <p>⑦ 既存事業に充実しているものもあるが、一層の充実を</p> <p>第5 「主な重点施策」 「1 文化活動の幅広い県民の参加」について</p> <p>⑧ 子どもたちが触れる事が大事、アウトリーチを充実すべき</p> <p>⑨ 子どもへの参加については、学校教育と連携できれば、一層の充実が図れる</p> <p>⑩ 学校教育との連携が十分に周知されていない</p> <p>⑪ 食の素材だけでなく器、作庭、調度等と連携し富山料理の確立を</p> <p>⑫ 「子ども」というくりが、子どもの自立心を抑えてしまう懸念</p> <p>「3 文化と他分野の連携」について</p> <p>⑬ 新幹線の開業までに観光資源として文化財の魅力のプログラミングが必要</p> <p>⑭ 県内の食文化の特徴を把握し、際立ったものを全国発信することが必要</p> <p>⑮ 食文化の発信については、継続的な取り組みが必要</p> <p>⑯ 富山料理の精神性(安らぎの料理、心の料理)のアピールが大事</p> <p>第7 「文化振興の体制づくり」について</p> <p>⑰ 県民、企業、芸術文化団体との連携について、具体的に記述すべき</p> <p>その他</p> <p>⑱ 計画見直しの3つの視点の象徴である文学館の成果に期待</p> <p>第5 「主な重点施策」 「1 文化活動の幅広い県民の参加」について</p> <p>① 県内文化ホールのネットワークがうまくいくような方策を考える必要がある。</p> <p>② 美術館で子どもに対する絵の解説があるようだが、PR不足である。</p> <p>③ 学校の先生に余裕がなく、文化活動が停滞している。</p> <p>④ 学校における正規のキャリアプログラムに生活文化活動がない。</p> <p>「3 文化と他分野の連携」について</p> <p>⑤ 学校と連携して作家との間を取り持つマネジメント業務のようなことが必要</p> <p>⑥ アートと他分野との連携は必要</p> <p>その他</p> <p>⑦ 文化振興計画自体をもっとPRすべき</p>	<p>① 文化振興の視点を、①「文化を創造・鑑賞・支援する人材の充実」、③「ふるさとへの誇りや愛着の涵養」とし、内容を具体的に表現する。(P46～P47)</p> <p>② 「ふるさと」には、県、市町村、地域など広い意味を持っていることから、現行の表現のままとした。(P47)</p> <p>③ 文化振興の視点③「ふるさとへの誇りや愛着の涵養」のもと、取り組みを推進する。</p> <p>④ 4つの「県民参考指標」を設定する。(P49)</p> <p>⑤ 基本目標を具体的にイメージするための参考となる「県民参考指標」を設定する。(P49)</p> <p>⑥ 10年間とする計画の期間中でも、前期5年間で重点的に取り組む施策を明確にする。(P50～P51)</p> <p>⑦ 前期5年間で重点的に取り組む施策を明確にし、充実を図る。(P50～P51)</p> <p>⑧ 出前公演や学校一日美術館など「巡回展示や出前公演等による鑑賞機会の充実」(P55)に取り組む。</p> <p>⑨ 子どもたちの芸術文化の鑑賞・発表の機会の確保や小学校での出前コンサート開催、学校一日美術館の周知など「若手芸術家の育成」(P64)、「巡回展示や出前公演等による鑑賞機会の充実」(P55)に取り組む。</p> <p>⑩ 文化活動と他分野の活動をコーディネートする人材の育成を図る(P58)などに取り組む。</p> <p>⑪ 「子ども」という表現は「次世代を担う人」の年齢的区分として用いており、次世代を担う人たちの文化活動の充実を推進する。(P59)</p> <p>⑫ 北陸新幹線の開業を見据えて、富山ならではの文化資源を活かした魅力的な観光商品の開発や観光資源のプログラミングなど「文化を活かした観光の振興」(P76)の取り組みを推進する。</p> <p>⑬ 首都圏におけるイベントや県内外の飲食店等と連携したキャンペーンの開催により「食のとやまプログラミング」の確立を図るなど「食文化の魅力を全国に発信」(P80)する取り組みを一層推進する。</p> <p>⑭ 富山の伝統を活かした「越中料理」の継承・創作に取り組むなど「食文化の魅力」を全国に発信し(P81)を一層推進する。</p> <p>⑮ 県民、企業、芸術文化団体との連携について、「各主体間の連携による取り組み」(P88)を具体的に記述する。</p>	<p>① 県内外の文化ホールのネットワークを通じた共同企画事業の実施、情報の発信、専門職員の交流、情報交換や連携等による文化活動の拠点機能の向上の取り組みを支援する。(P54)</p> <p>② 親子で楽しむ解説付きの講座の開催等に取り組んでおり(P55)、学校への周知やHPの活用等そのPRの充実に取り組んでまいりたい。</p> <p>③ 教員研修の充実や学校や研修会への講師派遣など「学校教育における文化活動の充実と地域における文化活動への理解の促進」(P61)に取り組む。</p> <p>④ 芸術・伝統文化に関するキャリアプログラムの研究開発推進など「学校教育における文化活動の充実と地域における文化活動への理解の促進」(P61)に取り組む。</p> <p>⑤ 地域で育まれてきた文化資源とまちづくりの活動をコーディネートする人材の育成を図るなど「文化を活かした産業の振興」(P82)、「最先端のものづくり文化の創造」(P83)など「文化と他分野の連携」を推進する。</p> <p>⑦ 概要パンフレットの作成・配布やHPなどを使って県民に広く周知していく。</p>
<p>芸術団体等ヒアリング (9団体)</p>		